

アグリワークポイント AGRIWORKPOINT

米

刈り取り後の水田管理

農業経営支援課 山村



刈り取りも終盤になってきました。作業終了後は、機械の整備や点検、畦畔や圃場整備を進めるとともに、次年度に向けての管理を行ってください。また、収穫したお米は適正に保管し、年間を通じていつでもおいしいお米を食べられるようにしましょう。

秋耕により稲わらの腐熟を促進

収穫後の稲わらや刈り株を放置しておくとし翌年の湛水時に大量のガスが発生して水稲の生育を阻害します。収穫後にすき込みをして秋の内に稲わらを腐熟させ、翌年のガス害予防と土づくりを行いましょう。

○すき込み時期と耕起の程度

・地温が高いほど腐熟が進むため早い時期にすき込むほど効果が高くなります。深く耕すと通気性が悪く腐熟しにくいいため、浅く耕すようにしましょう。(5～10cm程度が目安)

○除草剤との併用について

- ・除草剤は効果を高めるため気温が高いうちに使用しましょう。
- ・クロレートSは散布後20日以上空けてから耕起、または耕起後に散布してください。
- ・プリグロックスLは直接茎葉や種子に触れる必要があるため耕起前に散布しましょう
- ・散布後はすぐに効果が表れるため数日空ければ耕起可能です。
- ・石灰窒素は散布後2週間以上空けて耕起することで雑草防除と腐熟促進効果が期待できます。

お米の保存は専用の保管庫で！

・保管する場合は、精米よりも玄米の方が良いと言われています。

・玄米の水分は14～15%程度が良いです。

・気温・湿度の増減が少ない環境が適しています。

専用の保冷庫を用いれば玄米の保存に適した温度12～14℃、湿度55～75%の維持が容易です。

米の品質管理には十分注意しましょう！